

「一年間を振り返って」

理事長

森大介



長いようで短い、あっという間の一年間でした。2017年6月6日の火曜日、第2回理事長候補者・監事候補者選考委員会で理事長候補者に選任いただいたその時のことを昨日のこのように覚えています。その瞬間から18か月が経とうとしています。この期間のことを考えると、ただただ、感謝の言葉しか出てきません。まずは、専務理事を引き受けていただいた山岡大介君、そして、副理事長を引き受けていただいた、青木俊



宏君、野田敏弘君、西岡信幸君、光樂朋尚君、坂井田純子君、本当にありがとうございました。そして、理事として局長・委員長を引き受けていただきました皆様にも、感謝申し上げます。本当にありがとうございました。私の拙い理事長所信から本当に多くの、そして、実りのある事業を展開していただきました。そして、役職を果たす中で、やりたくないことも嫌われるようなこともあったことと思います。家庭や仕事の時間を犠牲にされたこともあったと思います。「青年会議所活動は、まち創りを通したひと創りだ！」「すべての活動は自己成長につながる！」「自分の将来のためにちょっと無理をして器を大きくしよう！」という旗印のもと、それは確かにそうなんだけれど、現実的にはそんな言葉で終わらせられない苦労があったことと感じています。青年会議所活動は、その年ごとに様々な役職を経験することができ、役職が変われば、いろいろな物事の見方を変えることができます。確かに苦労は多いかもしれませんが

が、せっかく機会があるのなら、その物事の見方が変わる立場に立ってほしいと思います。私自身が一年間を通して見た景色は、皆様がそれぞれの形で真摯に青年会議所活動に向き合い、ひたむきに活動する素晴らしい景色でした。様々なことに挑戦して成長する素晴らしい景色でした。そんな景色を見せていただきましたことに改めて役職者のみならずすべてのメンバーの皆様に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

そんななか、悔やまれるのは、1月の初顔合わせの挨拶で公約した「対内 Facebook の 365 日更新」が実現できなかったことです。いまの LOM の閉塞感除去や一体感醸成から、拡大機運の向上や会員間コミュニケーションに寄与できるのではと思い、始めたのですが、皆様にとって負担になってしまっていたところがあるのかもしれないと反省しております。もう一度、この立場をやらせていただけるなら、こうしよう、ああしよう、という思いが今更ながら湧き上がってきてしまいます。皆様にとって頼りない理事長だったかもしれませんが、本当に楽しく実りの多い活動をさせていただきました。一年間、本当にありがとうございました。

「一年間を振り返って」

専務理事

山岡 大介



2018年度、森理事長のもと専務理事を拝命しました。まずはメンバーの皆様、私にこのような役職を担う機会を与えていただいたこと、また、1年間共に活動していただき、様々な場面でお支えいただいたことに心より感謝申し上げます。

一宮青年会議所において専務理事は、理事長を支える組織の要として機能しなければならぬ



整役を担うという振る舞いもあり得たのではないかと反省しております。

最後に、私と共に1年間活動していただいた朝日事務局長と榊原事務局次長にも心から御礼申し上げます。円滑な理事会の運営という事務局の職責に鑑みれば、2018年度は議案の不備等によって理事会の途中で休憩動議が入ることも多く、事務局長、事務局次長には無用の苦勞をさせることも多かったと思います。そのような中でも適宜適切に対応していただいた両名には感謝しております。

以上、あらためてにはなりますが、共に活動していただいた全ての皆様に御礼申し上げます。ありがとうございました。

いと伝えられます。1年間の自分を振り返るに、一方では強権と言われ、他方ではもっと厳しくせよと言われるなど、それぞれ異なる意見の調整に汲々として自らの立ち位置を定めかね、中間管理職然とした振る舞いに終始していたように思え、果たして組織の要というに相応しい活動ができていたかどうかは甚だ疑問であります。しかしながら、途中、理事の退任等、イレギュラーやトラブルもありましたが、皆様のお力添えのおかげで何とか2018年度を無事に終えられたことに安堵しております。

また、一宮青年会議所の専務理事には、西尾張の親LOMの専務理事として、専務理事間で各LOM間の調整を行うという対外的な務めもあるのですが、こちらも十分に果たすことはできなかつたと感じており、その結果、次年度愛知ブロック協議会への西尾張エリアからの役員輩出が円滑に進まないこともありました。対外的な振る舞いに関しても、事前に、もう少し前に出て調

「一年間を振り返って」

副理事長兼総務室長

西岡信幸



2018年度副理事長兼総務室長という大役を与えていただきました森理事長に心から御礼申し上げます、そして青年会議所メンバーの皆様には1年間共に支援・活動していただき誠にありがとうございました、心より感謝申し上げます。皆様には設営の不備等で多くのご迷惑をおかけしましたことをここでお詫び申し上げます。しかしながら苦しい時に皆様には沢山の温かいご協力をいただきました、その際は委員会メンバー一同



大変救われました、改めて御礼申し上げます。

森理事長から総務と渉外を一緒にした委員会を任命され気概を持って臨みましたが、私自身の知識・経験不足から室長として委員会メンバーに適切な指示が出せずメンバーの皆様にご迷惑を掛けてしまいました。そんな中でも高垣委員長をはじめとする委員会メンバーに支えられ活動を全うすることができました、高垣委員長と委員会メンバーには感謝しかございません、本当にありがとうございました。候補者の段階から毎月議案の提出と各種会議・大会の設営、とうかい号の乗船者募集・支援、6JC 正副・公式訪問等、日々目まぐるしく、委員会としてなかなか思うような活動ができませんでした。総務に関しては私自身の勉強不足により財務知識の乏しいこともあり高垣委員長には大変苦勞をかけました、質問に対して的確なアドバイスができず委員長の負担を増やす結果となってしまいました。その他賀詞や総会設営、渉外に関しても日々の活

動に忙殺されなかなか思うような活動ができませんでした。前年度が事業系の委員長を務めておりましたので活動のギャップを感じると共にこうした対内委員会のメンバーの皆様の下支えがあって一宮青年会議所が成り立っているのだと感謝をすると共に改めて感じることができました。

室長として委員会の運営について指導、監督することに手一杯で、副理事長として組織全体の運営に目を向けることが十分にできなかったことが大きな反省点です。次年度はまた大きな担いをいただいておりますので2018年度の反省をしっかりと私自身の経験を伝えていきたいと思いません。

最後に、私が1年間職責を全うすることができたのだとすれば、それは私に関わっていただいた皆様のおかげにほかなりません。本当にありがとうございました。

「一年間を振り返って」

副理事長兼ひとのつながり創造室長

青木俊宏



2018年度副理事長兼ひとのつながり創造室長という大役を与えていただきました森理事長に心から御礼申し上げます、そして青年会議所メンバーの皆様には1年間共に支援・活動していただき誠にありがとうございました、心より感謝申し上げます。

今回、拡大・広報委員会とひとの魅力開発委員会の2委員会を担当させていただきました



そして、伊東委員長、坂井委員長の一年間の成長と、二人からの「青木担当のお陰です」という最後の言葉が何よりも嬉しかったです。

最後になりますが、非常に多くのことを学ばせていただきました事、そして私をお支えいただきました全ての皆様に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



た。候補者期間は、私自身も委員長として例会議案作成及び例会の実施の真っ只中でした。正に毎日青年会議所活動をしているような状況でしたし、社業では新店舗設立、現場での指揮監督もしておりました。この時期の強烈な忙しさ・苦悩が自分のキャパを広げてくれたのだと感謝をしております。

拡大・広報委員会、人の魅力開発委員会、社業の全てを必ず成功させると気概を持って臨みましたが、蓋を開けてみればどこかに集中すればどこかが手薄になってしまうという状況で、伊東委員長、坂井委員長には大変な苦勞をかけてしまいました。そんな中でも拡大・広報委員会伊東委員長を始めとするメンバーの皆様、ひとの魅力開発委員会の坂井委員長を始めとするメンバーの皆様の頑張りで一年の活動を全うすることができました。両委員会の委員長とメンバーの皆様には感謝しかありません。本当にありがとうございました。

「一年間を振り返って」

副理事長兼青少年共育室長 光樂 朋尚



2018年度副理事長兼青少年共育室長という大役を務めさせていただきました森理事長には厚く御礼を申し上げます。私に務まるのであろうかと不安に思いましたが、無事に1年を終えることができ胸をなでおろしています。また、1年間サポートをしていただきました青少年共育委員会メンバーはもとより、全てのメンバーに感謝申し上げます。



副理事長という役職は対外的な部分で他の青年会議所の方々や諸先輩方、一宮市をはじめとする地域の方々、各種団体の皆様や様々な企業様との関わりが非常に深いものであると実感しました。一宮青年会議所の名を汚さぬように努めてきたつもりですが、努力が足りない部分があったことを深く反省しております。対内的には青少年共育委員会を含め、一宮青年会議所をより良くするように導けたのか、他のメンバーの模範となれたのかと考えると、もっと自分自身に厳しくなればできたのではないかと反省しております。

野杵委員長には卒業年度にも関わらず青少年教育委員長を引き受けていただきありがとうございました。同期入会・ブローカ同塾の野杵洋平君と一緒にできたことは本当に良かったと思っています。4月公開例会には慶応大学准教授の中室牧子氏を招いての親学、8月には第2回キッズタウンプロジェクトを開催致しましたが、私の力不足により野杵委員長が思い描いてい

た事業・例会を行うことができなかったという点では委員長には大変迷惑をかけてしまったと思っています。しかし、最後まで委員長の職務を全うしていただき、委員会メンバーを纏めて率いていく姿は素晴らしいものでした。本当に野杵委員長には感謝しております。ありがとうございました。

最後に、森理事長を始め2018年度理事会構成メンバーの皆様には支えていただきましたこと感謝申し上げます。非常に多くのことを学ばせていただきました。次年度にこの経験を活かして活動していきたいと思っております。1年間ありがとうございました。

「一年間を振り返って」

副理事長兼 LOM の魅力向上室長

坂井田純子



2018年度副理事長兼 LOM の魅力開発室室長という大役を務めさせていただきました森大介理事長には心より御礼を申し上げます。また、一年間サポートを頂きました交流・アカデミー委員会の皆様、そして全てのメンバーにお支えいただきましたことを感謝申し上げます。

昨年に引きつづき副理事長職、そして、アカデミー委員会担当に本年に臨みましたが、携わっ



たことがなかったため、正会員予定者との距離感、そして卒業例会設営の難しさなど戸惑うことが多くありました。2度目の副理事長職のプレッシャーが大きく自分を必要以上に追い込んでしまうことが多い1年だったと思います。また、次世代の役職者を育てるといった大きな役割を残念ながら本年も果たすことができず反省と後悔が残ってしまいました。しかし、2014年に委員長職を受け、数年 LOM での役職から離れていた高月英昭君に交流・アカデミー委員長を受けていただけたことが、私にとって1番の成果だったと思います。

家庭や職場で色々な問題を抱えながらも精一杯青年会議所活動をしているメンバーがたくさんいます。問題を抱えながら、全力で自分の与えられた役職を手を抜くことなく、常に全力で全うしようとする JAYECC である高月委員長とともに 500 日間歩んでくれたこと、そして、共に歩める機会を与えていただきました全ての皆様に心より感謝御礼申し上げます。

高月委員長はじめ、交流・アカデミー委員会と過ごしてきた厳しくも充実したこの1年が必ず今後の青年会議所活動に活かされると確信しております。

そして、なによりこの10年間同期入会、2012年には委員長と副委員長。2017年には理事長と副理事長という関係で過ごしてきた服部良太君の卒業を担当室長の立場で見届けられたのも重ねてにはなりませんが、私に副理事長兼 LOM の魅力開発室長の職をお預け頂きました森理事長のおかげです。心より感謝申し上げます。

最後になりますが、改めて1年間私をお支え頂きました全ての皆様、本当にありがとうございました。

「一年間を振り返って」



副理事長 野田敏弘

2018年度副理事長兼地域づくり室長という大役を務めさせていただきました森 大介理事長には心より御礼申し上げます。また、事情はどうあれ委員長が途中で退会する形になったことは私の不徳の致すところでございます。本当に申し訳ございませんでした。その中で一年間サポートいただきました地域ブランド発展委員会の皆様、そしてすべてのメンバーにお支えいただきましたこと感謝申し上げます。

初めての副理事長職、まだJC経験が浅い時にしか経験がなかった地域づくり担当に臨みましたが至らぬ点多々ありました。青年会議所として地域の皆様にとしたら地



会・7月公開事業ではAR(拡張現実)を用いて七夕まつりにて138ハロウィンとどてカラ井の発信、集大成として10月公開例会・138ハロウィン〜おりものパレード〜を行い地域ブランドの発展を行いました。こうした活動が地道ではありますが明るい豊かな地域へつながっていくと信じてこれからも活動していきたいと思えます。

最後になりますが、森理事長をはじめ支えていただきましたすべてのメンバーの皆様、本当に一年間ありがとうございました。大変でしたが楽しく活動できました。



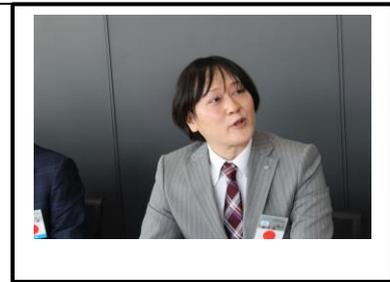
域のブランドを知っていただき好きになってもらえるかを委員長及び委員会メンバーと考えつづけました。5月から委員長不在になり必死に2018年を駆け抜けました。自分自身に余裕がなく反省ばかりが思い出されます。

その中でもスタッフは委員長が退会してから元々のポテンシャルもありましたが飛躍的に自己成長していただけたのが私にとっての救いです。1月からスタートしたどてカラ井 web ページ・父親がどてカラ井をつくり家族に食べていただき地域のブランドを好きになっていただいた5月公開例

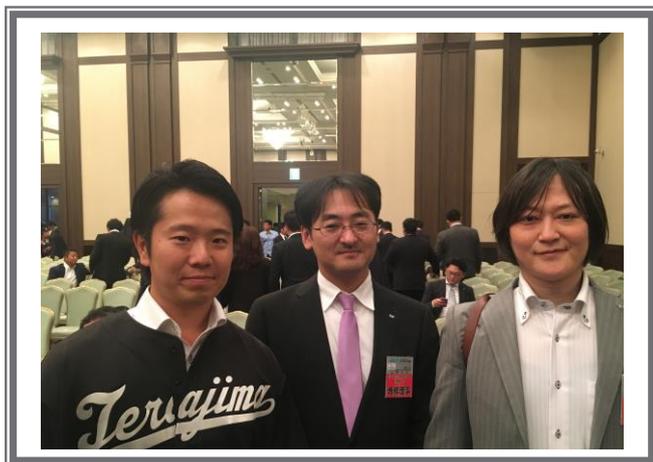
「一年間を振り返って」

事務局長

朝日健二



2018年度、森理事長のもと事務局長という大役を一年間務めさせていただきました。まずは、このような機会をいただきまして、森理事長をはじめとする一宮青年会議所メンバーの皆様に深く感謝申し上げます。正直なところ、はじめ山岡専務理事からこの話をいただいたときは、まさか自分がという気持ちでした。当時はまだ入会2年目で広報・交流委員会の幹事を務め、JC活動に一步踏み出したばかりで分からないことが多



く、そもそも事務局長って何をやるのという段階であり、そんな自分が果たして、事務局長そして理事という大役を務めることができるのか、すごく不安でした。そんな折、同期入会した高垣遵君が総務・渉外委員会の委員長を受けたという話を聞き、それなら自分も断る理由は無いと思い、恐る恐るですが拝命しました。

そんな先行き不安を感じながらスタートした私ですが、この一年間いろいろな場面で事務局長として至らない面や多々不手際もあったかと思いますが、理事会構成メンバーの皆様には、とても温かい目で見守っていただきましたことを感謝申し上げます。そして、何よりもこんな頼りない事務局長の下、事務局次長としてしっかりと役目を果たしていただいた榊原健人君にはお詫びと共に感謝申し上げます。榊原君のお蔭でこの一年間理事会を滞りなく開催することができました。本当にありがとうございました。榊原君の今後の飛躍とご活躍を心より願っております。

事務局長という立場上、理事長の傍で一宮青年会議所が行う事業はもちろんのこと、他 LOM の式典や愛知ブロック、東海地区が行う会議や事業などに参加することができました。おそらくこの事務局長という役を受けていなければ、ここまで積極的に参加できたかどうかを考えると、とても充実した一年間だったかと思います。いま一步 JC 活動に踏み出せない方は、役を受けるといのも一つの手かと思いますが、人によっていろいろと経緯はあるかと思いますが、学び舎としての青年会議所に自ら門を叩いて入会を決めたのであれば、是非ご自身の JC ライフの中で一度は役を受け、自らの成長に繋げていただければと思います。皆様、この一年間ありがとうございました。

「一年間を振り返って」

総務・渉外委員長

高垣 遵



まず初めに総務・渉外委員長という大役を計らっていただいた森理事長、私の様なオールドルーキーの若輩者を信じ、お声をかけていただいた西岡副理事長、また、1年間立ちっぱなしとなってしまう理事会にて時に厳しく、時に暖かいご意見・アドバイスをいただいた理事会構成メンバーの皆様、そして何よりも、経験も人脈も無いJC活動や委員会運営について右も左も分からない頼りない委員長に最後まで着いてきていた



だいたスタッフ・委員会メンバーの皆様がこの場をお借りし心より感謝を申し上げます。ありがとうございました。

例年単独となることの多い総務委員会と渉外委員会を併せた委員会の長をお任せいただき、何とか全うすることができましたが、全ての事業において中途半端な結果を残すこととなってしまいました。全ては自分の甘さと覚悟の足りなさが招いた結果であると感じ、大変恥ずかしく思います。しかし、その中でも本年度委員長として自分が携わるまでは、どちらかと言うと否定的な考えを持っていた出向・とうかい号事業に対して考えを改めることができたことはJC活動の中では良い経験となりました。

また、極めて個人的な想いとなりますが卒業年度にも関わらず快く副委員長を受けていただき、最後まで私を見捨てることなく支えていただいた今西副委員長の



ご卒業をお見送りすることができたことを本当に嬉しく思います。執筆中の現段階ではまだ完全に振り返ることが難しい状況ではありますが、数か月後、数年後にこの経験を無駄にすることだけは無いよう努めさせていただきます。

500日間、本当に休む間の無い日々が続きましたが、JC内外に関わらず私を支えていただいた全ての皆様に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

「一年間を振り返って」

拡大・広報委員長

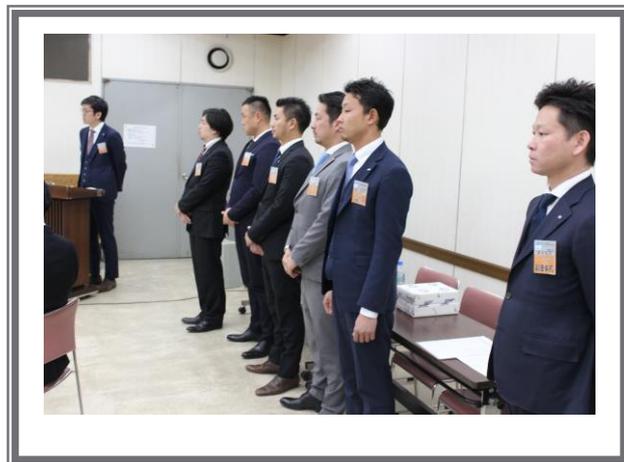
伊東大徳



本年度、拡大・広報委員会の主な活動として、一宮青年会議所の会員数を増やすための拡大活動。一宮青年会議所の活動・魅力を伝える広報活動の2本柱で活動いたしました。会員拡大では1年間会員の拡大に向かって活動してきましたが、思うような結果を残すことができませんでした。一宮青年会議所全会員を巻き込む会員拡大活動は非常に難しいと思います。ですが、全会員に理解していただくため行動するしかあ



りません。なんといっても拡大対象者の情報提供がすべてであると感じました。拡大対象者にまず会うまでは情報提供者に連絡を取り続けていただくのが大事だと感じました。また、SNSを頻繁に利用してください。会員の皆さんに行動を教えてください。次に、拡大対象者は会うことはできても、必ず入会申込みをいただけるとはかぎらないので、拡大対象者と十分に話ができるように心がけてください。会う回数が多くても、入会申込には繋がりませんでした。とにかく行動する必要があります。本年度は13名の入会申込者になりましたが、この13名に入会申込みをいただくのには多くのメンバー、また先輩方のご協力、ご支援があつてのことだと思います。本当にありがとうございました。会員拡大活動はどこかで終わりではなく、永遠に続いていくことだと思います。委員長の任は終わりますが、会員拡大はこれからも続けていきます。これからもどうぞよろしくお願ひします。



広報活動では「頻度と継続性」を重視し SNS をメインに展開してまいりました。一宮青年会議所公式 Facebook ページの更新回数が少なくなってしまい地域(まち)の皆様へ活動をお届けすることが少なくなってしまいました。もっと、一方的に発信するだけでなく受け取り手に有意義な情報を発信することができれば地域(まち)の人々に一宮青年会議所の「魅力」を発信できたと思います。

最後に、本年拡大・広報委員会は担当副理事長を含め10名で活動してまいりました。1年間を通して、事業計画には表れない様々な活動を行う中で時間を共有することのできたメンバーにありがたみを感じています。

私、自身委員長としては至らぬ点が多かったことを反省しております。そして、最後まで支えていただきました担当副理事長、委員会メンバー、LOMメンバーの皆様にお礼申し上げまして締めくらせていただきます。

本当にありがとうございました。

「一年間を振り返って」

ひとの魅力開発委員長

坂井大輝



1年4ヶ月前に、青木副理事長から委員長の話をいただきこの役職を受けさせていただきました。幹事、副委員長の時も青木副理事長の下で勉強させていただいており、委員長を受ける決心をしました。私は、今までリーダーのような役はやったことが無く不安でした。基本方針作成時に理事長所信を読んで一年間の活動を決める時には、ひとの魅力について何をして良いのか分からなくてスタッフ、委員会メンバーに大



変助けられました。今思いますと、自分自身に思いが定まっておらず、もっと早い段階から調べるべきでした。このひとの魅力開発委員会は担当例会が11月の一つでした。色々な事業の候補を出して、魅力ある人材の育成をする事業の組立を考えました。魅力ある人材に関しては、非常に難しく私自身が目指している魅力ある人物がありませんでした。魅力ある人物の部分では、自分ひとりの力では出すことが出来ず何を考えて良いか分からない状態に陥りました。青木副理事長に指導していただき、もう一度自分自身を見つめ直させていただき少しずつやるべき事が見えてきました。

スタッフや委員会運営に関しても、進行のやり方や人をお願いする事など当初では、なかなか機能していませんでした。議案もなんとか審議可決していただき実働で、チラシ・ポスターの配布、一般参加者の募集に関して委員会メンバーの皆様にご協力していただき委員会でのまとまりも出てきました。

一般参加者の募集に関して、なかなか委員会メンバーだけの声かけだけでは集まらず、一般企業にも参加のお願いをしに回りました。しかしなかなか集める事が出来ずLOMメンバーの皆様をお願いをして一般参加者50名の登録をしていただきました。9月・10月公開事業・11月公開例会と3ヶ月の連続となる事業でしたが、委員会メンバー、LOMメンバーのご協力により無事に終わる事が出来ました。この事業、例会を終えて一番うれしかった事は、参加者の方から「事業内容よかった」「この事実践します」「知り合いも参加させたい」などの声を聞いたことです。この事業を行うまで、辛くて辞めたい時もありましたがあきらめずにやってきて良かったです。あきらめず出来たのは、委員会メンバーの支えと青木副理事長の言葉「命を取られないし、失敗してもいいから真剣に考えてやろう」があったからです。頼りない委員長で青木副理事長、委員会メンバーには沢山のご迷惑や、心配事をおかけしましたが最後まで付いてきていただきありがとうございました。

この委員長職の経験をさせていただき多くの学びを得ることができました。森理事長、一宮青年会議所メンバーには、素晴らしい機会をいただいた事に本当に感謝しております。1年4ヶ月、本当にありがとうございました。

「一年間を振り返って」

青少年共育委員長

野杵洋平



1年間を振り返るにあたり私ども青少年共育委員会の例会、事業にご参加・ご協力をいただきましたメンバーの皆様、ご協賛を賜りました先輩諸兄様をはじめいたします企業様に心から御礼申し上げます。本年度、青少年共育委員会、総勢10名のメンバーで地域(まち)の大人たちが未来を担う子供たちの「生きる力」を育むために科学的根拠に基づいた子育てを学ぶ機会を作ること、明確な目的に向かって能動的に



行動し、最後までやりきる力と他を慮る道徳心を持った未来を担う子供たちを共育するという2つの方針のもと活動してまいりました。

4月には、中室牧子先生をお招きして「大人が学べば子供も変わる～教育に科学的根拠を～」というテーマのもと例会を開催いたしました。また、筑波大学の構井先生をお招きして実際に家庭で行うことのできる非認知能力を伸ばす方法の事業も行いました。

7・8月には、第2回一宮キッズタウンプロジェクトを開催。7月と8月に市内の小学生を対象に2回の事業1回の例会を開催しました。前年のキッズタウンプロジェクトの方向性を損なうことなく大きな事故やケガもなく無事に事業を終えることが出来ました。

これらの例会・事業を行い、楽しいことや辛いこともたくさんありました。そんな時はいつも委員会メンバーがそばにいてくれて、私を支えてくれました。三嶋・岩田副

副委員長、日比野幹事という素晴らしいスタッフの皆さん。秋田君・林君・平松君・森一彦君・小橋君という素晴らしい委員会のメンバー。皆さんののおかげで1年間委員長職を全うすることが出来ました。

最後に、その中でも光楽担当副理事長には本当にご無理ばかりを言いました。不条理なことがあり投げ出さなくなったこともたくさんありましたが、光楽担当だったからやり遂げる事ができたのだと思います。本当にありがとうございました。私にとって本当に成長できた1年だったと思います。最後になりますが、森理事長をはじめ理事会構成メンバー、LOMメンバー、委員会メンバーの皆様には最後までお付き合いいただき心より感謝申し上げます。今後はこの経験を少しでも社業や社会貢献に役立てられるように頑張っていきたいと思います。本当にありがとうございました

「一年間を振り返って」

交流・アカデミー委員長

高月英昭



2018年度交流アカデミー委員会委員長というリベンジの機会をいただきました坂井田担当副理事長に心から感謝しております。2014年に1度目の委員長をさせていただきましたが務めを果たすことができなかつた事もあり、不安な気持ちで予定者期間を過ごしておりました。

2018年度オリエンテーション初顔合わせからスタートし14名の予定者をお預かりさせていただ



もちろん、大邱江北青年会議所メンバーの皆様ともコミュニケーションを図っていただきたいとの思いで例会を企画し、合戦は大いに盛り上がり、楽しい交流が図れたと確信しております。国境の垣根を超えて盛り上がり、真剣に合戦する姿、そしてなにより多くのメンバーの笑顔を見ることができたこと大変感動しました。

最後になりますが委員長職を最終まで務めることができたのも委員会メンバーの皆様の支えがあったからこそだと思います。本当にありがとうございました。そして、委員会運営が行えたのも副理事長、スタッフの皆様のおかげで感謝しかありません。約一年半本当にありがとうございました。

き、半年間の研修期間をともに活動させていただきました。結果的に10名正会員になっていただく事ができ、オリエンテーションから卒業例会まで様々な準備を含め多くの時間の重ねていくごとに一つになっていく感じがとても楽しく活動させていただく事ができました。

また、2度の交流例会を担当させていただきました。3月例会では交流例会ということで運動会をさせていただきました。100%例会を目標の一つとしておりましたが、残念ながら達成することはできませんでした。参加していただいている皆様が一生懸命に取り組んでいただき、また、競技中や応援に力を入れているメンバーを見て、日頃JC活動をしているときとはまた違った一面を見ることができました。6月例会ではチャンバラ合戦を行い、オリエンテーションと大邱江北会議所との交流を含めて形で開催をさせていただきました。予定者の皆様には例会の準備から設営まで委員会メンバーとともに行っていただきました。LOMメンバー同士はもち



「一年間を振り返って」

公益社団法人日本青年会議所東海地区協議会

会務担当副会長 服部良太



昨年に引き続き東海地区協議会に役職者として
出向をさせていただきました。森理事長をはじめとする
一宮青年会議所メンバーの皆様には多大なるご
支援ご協力を賜りましたことをこの場をお借りして感

謝申し上げます。また、東海フォーラムを担当する
委員会を持ちましたので、登録に関してご配慮頂き
ましたことも重ねて感謝申し上げます。

東海フォーラムは1000万を越す事業規模を誇るの
で中々味わうことのできない体験をすることができま
す。特に本年はフォーラム委員会がすべてを創り上
げたのでプロセスから実施に至るまで様々な出来事
があり、とても充実しておりました。そのため、終わ
った後の達成感と一緒に創り上げた一体感はと
ても大きいものでした。東海4県から集まる委員会メ
ンバーとの交流も新しい考え方ややり方も学べて、
様々な面において幅を広げることの出来る大変貴
重な機会になります。是非ともその機会を取りにい
ってもらいたいと思います。

「一年間を振り返って」

公益社団法人日本青年会議所東海地区協議会

東海フォーラム2018運営委員会 副委員長 青山直生



本年度、東海地区協議会 東海フォーラム2018運
営委員会 副委員長として出国させていただきました
ことに森理事長をはじめとするメンバーの皆様
に心より感謝申し上げます。

本年度は2017年度会長輩出LOM・2018年度副
会長輩出LOMとして一宮青年会議所に泥を塗ら
ぬようにという想いと若いメンバーと一緒に
出向することで成長のきっかけを作ろうという
想いで出向させていただきました。一緒に出
向したメンバーがどこまで成長できたかは
分かりませんが、LOMでは経験できない刺
激を一緒に得ることが出来、出向したメン
バー同士は絆が深まったと感じています。苦
しい時も多くありましたが、この修練が自
分の成長となっていると思います。出向し
て良かったと今は思っています。今年学ん
だことをLOMで生かすことが出来るよう
邁進してまいります。出向はLOMにはな
い貴重な経験ととても刺激的なメンバー
に出会うことが出来ます。メンバーの皆
様は出向の機会、特に役付きで出向する
機会がありましたら、一度挑戦してみてください。
今年一年本当にありがとうございました。

「一年間を振り返って」

公益社団法人日本青年会議所東海地区愛知ブロック協議会

次代へつなげる逞しい愛知創造委員会 副委員長 平田浩一



2018年度、愛知ブロックへの出向をお許しいただきましたことに感謝申し上げます。この度の経験は、私の財産となりました。副委員長という立場は、現在の一宮青年会議所という委員長の立場に近いものがありました。10名程度の委員の方とともに、小委員

会の責任者という立場でお預かりします。私自身、60周年の記念誌の発刊に関わらせていただき、会長と知事との対談、歴代ブロック会長への取材等に同行させていただき、記事を書かせていただきました。取材に同行だけでも貴重な体験である中、それを記事にしてご確認をいただきながら進めていく点もお任せいただけたことは大変光栄でした。毎年、責任者が変わり、運営が変わっていく青年会議所活動ですが、人を大切にするということは、毎年継承されています。同時に一宮からの出向という目もございます。出向するからには楽しむことを忘れずに一年を過ごしていただければと思います。今期は貴重な経験をいただき本当にありがとうございました。そして、橘田委員長をはじめとする委員会メンバーの皆様とのご縁に感謝し、またお会いする日を心待ちにしております。

卒業を迎えるにあたり現役メンバーに伝えたい想い

2018年度卒業生

浅田佳寿優



独立と同時に入会したこの一宮青年会議所。当初はいつ辞めようかと考えながらJC生活を過ごしていましたが、いろんな人に出会い刺激を受け、真面

目に活動していくにつれ、楽しさとやりがいを見出すことができました。2013年には委員長を受けさせていただき、本当に多くの経験をさせていただきました。多くの仲間にも出会うことができました。その後、卒業まで何かしらの役職を与えていただきました。成長させていただいたこの団体には感謝の気持ちしかありません。人間の器というものがあるならば、その器を大きくするのは40歳までだと思います。それ以降はその器を磨いていくことしかできません。たくさん経験を繰り返し、青年の時期に自身の器を少しでも大きく広げて頂きたいと思います。

9年間、様々な人たちに助けられ自分の器を広げることができました。本当に感謝しています。長きに渡りお世話になりました。ありがとうございました。

卒業を迎えるにあたり現役メンバーに伝えたい想い

2018年度卒業生

今西達也



2013年下期に入会して本年無事卒業を迎えることができました。私はサラリーマンの立場で入会し2016年には仕事の都合で静岡県磐田市に生活の拠点を移すことになりましたが、それでも一宮JCを続け、そして2017年に愛知ブロック協議会の国際力

溢れる愛知創造委員会で副委員長を拝命し、生まれて初めて海外へいきました。ASPACでモンゴル、世界会議でオランダへジャパンナイトにてブース出展を通じ、世界のJCメンバーと触れ合うことができました。

そして本年、縁でカンボジアに行き現地の現状を肌で感じる事ができました。JCを通じて一サラリーマンでは経験できないことばかりでした。人脈もたくさん増えました。JCを続けてよかったと本当に思います。現役メンバーには無事卒業してほしい。できるのであれば出向し、あらたな出会い、発見をしてください。そして機会があれば世界のJCに触れてみてください。自分が所属している団体の凄さを感じられるかと思います。今まで本当にありがとうございました。

卒業を迎えるにあたり現役メンバーに伝えたい想い

2018年度卒業生

白木文章



今までにJC活動を通じて出会えました全ての皆様
に感謝申し上げます。2014年、4年前に入会した私
は夢と希望に満ち溢れていました、一宮のために何
かをしたい、何ができるのでしょうか、幼いころ憧れ
ていたJC、短い4年間ではありますが全力で活動し
たいと熱い思いを持って一宮JCの門を叩きました。

しかし、現実はそのような簡単なものではありません。
私が目にしてきたJC活動は、ほんの一部で裏に
隠された驚くべき努力のもとにJC活動がなされてい
ることを知ったからです。一宮のために何かをする
には、憧れだけではなく、覚悟と根性が必要なので
す。私には覚悟と根性が足りませんでした。私の中
途半端な考えが、多くのLOMメンバーに迷惑をか
けたと、今卒業するにあたり恥ずかしい思い出い
っぱいあります。4年前の私に言いたい、そんな甘
い考えでJCに入会するのではないと。卒業するにあ
たり、こんな中途半端な活動しかできなかった私に
対しLOMメンバーは、温かく見送ってくれました。4
年間という長いようで短い活動期間をともにすごし
てきたメンバーには感謝の気持ちしかありません。JC
活動を通じて生まれたこのLOMメンバーとの絆は
私にとって宝物です。

卒業を迎えるにあたり現役メンバーに伝えたい想い

2018年度卒業生

竹山聡



一宮青年会議所には2009年に入会させていただ
いて以来、素晴らしい方々との出会いをさせてい
ただきました。10年間という長きに渡って、ご迷惑をお
かけしながらも卒業の栄を賜うことができたのは先輩
やメンバーの皆様方のご支援のおかげだと感謝して

います。

振り返れば、この10年で一度も理事になることはあ
りませんでした。そのため私自身がJCを理解できて
いるとは甚だ言うに及びません。しかし、すべての種
類の委員会に所属させていただきました。そういっ
たことでは、青年経済人としての修練やふるさとのた
めに汗するなどの姿勢を目の当たりにすることで青
年会議所の共有すべき大切なことに気付かされまし
た。まさにそれはメンバー同士絆を貴びながら叡知
と勇気と情熱をもって一宮の未来、この国の未来を
明るく豊かにしていく第一歩なのだということです。
最後に皆様の一步がより大きく輝くことになること
をご祈念致します。

卒業を迎えるにあたり現役メンバーに伝えたい想い

2018年度卒業生

野杵洋平



2014年下期に入会をし、4年半という僅かな月日を一宮青年会議所の一員として活動させていただきました。入会以降、幹事・副委員長・委員・委員長と様々な立場で青年会議所活動に参加できたことを本当によかったと感謝しています。そんな中、いろいろなことがありけして順風満帆ではなかった日々、家族や社員、一緒に活動してくれたメンバーにもご迷惑をおかけしました。

青年会議所のことを最後の修練の場所、高い山と例える人がいます。一生懸命活動することで、それぞれが違う立場で見える景色や考え方に深みが出ることを感じます。残念ながら、青年会議所活動は40歳を迎える年の12月31日で終わりを迎えます。現役の皆様には、やるからには積極的に参加し固い絆で結ばれた友情や地域の為に自分たちが出来る最大限なことに挑戦していただきたいと思います。役職や歴で傲慢に振る舞うのではなく、一緒に活動してくれるメンバーに心を砕きながら活動してください。その姿こそ、魅力的な団体になる第一歩だと思います。最後になりますが、青年会議所活動を通じて知り合ったすべての方々へ感謝申し上げます、今まで支えてくれたメンバーの皆さん、従業員、家族に心からの感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。

卒業を迎えるにあたり現役メンバーに伝えたい想い

2018年度卒業生

服部良太



2009年に入会しましたので10年在籍したことになります。10年一昔と言いますので今と状況は変わっています。昔はこうだったということは言いません。やはり時代が変われば考え方ややり方が変わって当然ですし、そうしなければならないと思います。

ただ、理事長所信で書かせていただいたように、変えなければならないものと変えてはいけないものをはっきりと考える必要があります。JCに入って人それぞれ良かったことは違うかもしれませんが、自分自身は本当に人として成長させてもらったと思っています。その成長する過程には多くの苦勞がありました。しかし、その苦勞や労力が今の自分を作ってくれたと思います。楽な道を選択することは簡単です。楽な道には何もありません。何もないかもしれないけど苦勞する道を選んで下さい。その過程に無駄はなく、ある日そこに何もなかったわけじゃないと気づく瞬間があります。是非とも現役メンバーの皆さんには、無茶してはいけませんが少しの無理はしてほしいです。そして、大変なのは自分一人ではない。助けてくれる仲間もいる。その仲間のために少し無理をする。そのような気持ちで卒業まで駆け抜けてほしいです。

卒業を迎えるにあたり現役メンバーに伝えたい思い

2018年度卒業生

平松道介



怒涛のように過ぎていったJC活動でした。2012年に一宮青年会議所に入会させていただいた時は自分自身の会社を存続することも難しく最悪で本当に大変で仕方がない時期でした。そんな時期にも関わらず、私の尊敬する先輩から入会せよ。との絶対命令があり、当然断ることも出来ず、訳も分からないまま

入会しました。

入会後は大変ではありましたが、まずは自分自身がやれることを一生懸命やっていました。気付くと毎年なぜか役職を任せさせていただき、最終年度の今年になるまで、何かしらの役職を全うして参りました。ただ、それは本当に自分自身にとって、成長させていただけるとても良い場であったと今では感じます。役職を任せられていた当初は地獄のようでしたし、自社の仕事は全く出来ていませんでしたが、その経験があったからこそ、今の自分があると自信をもって言うことが出来ます。

現役のメンバーの方々も、大変ではあるとは思いますが、必ず自分の成長へと繋げられると思いますので、チャンスと捉えて、役職や出向など声がかかれば、挑戦して行って欲しいと思います。



監事所感

浅田佳寿優 野田一郎 眞野尚人

会員数が減少していく中、2018年度は期首会員数60名でスタートしました。会員数が少なくなると一人あたりの負担も増加していきます。そんな中、公益事業比率を遵守することは近年同様、多くの葛藤があったかと思います。

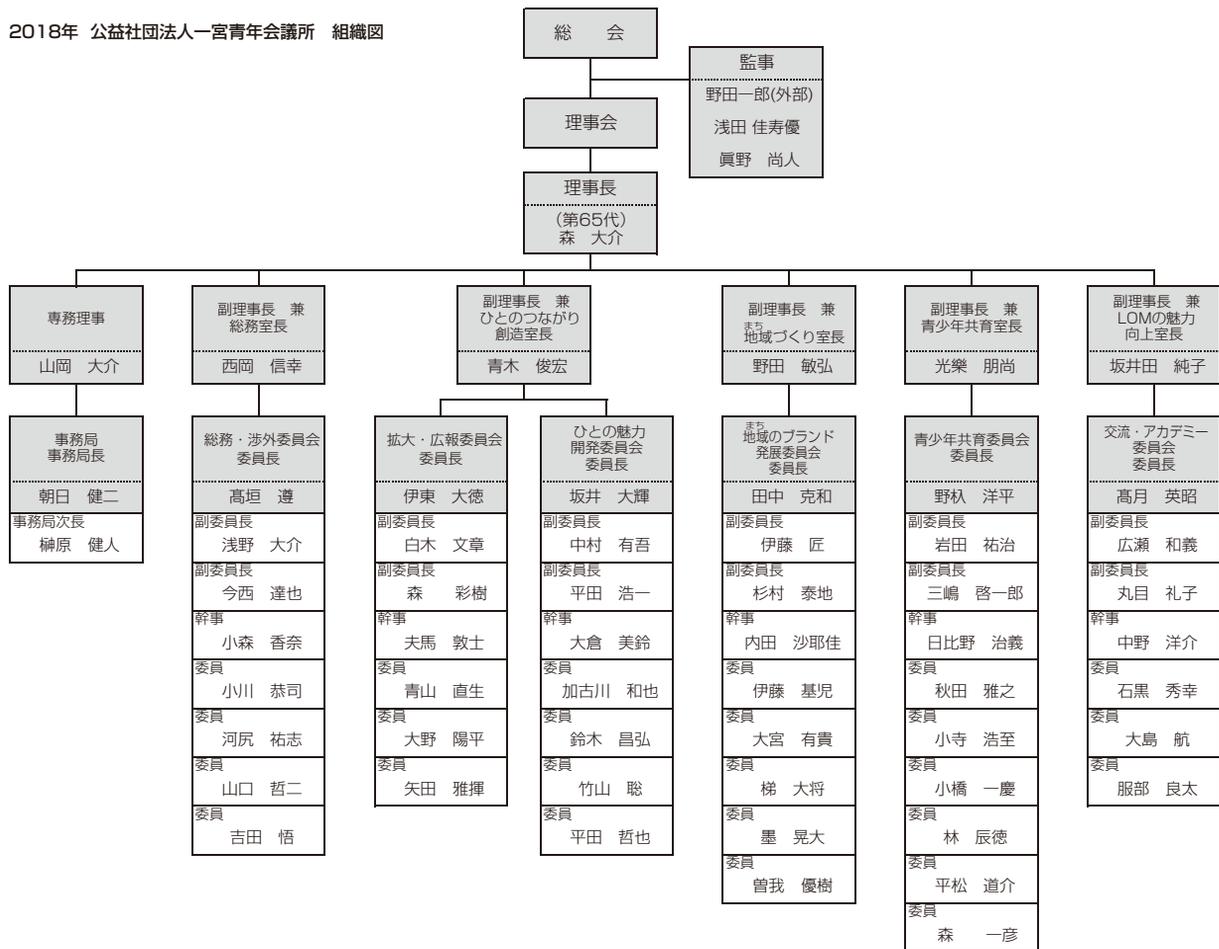
対外事業を受け持つ委員会の事業費配分が高くなり、多大な予算を預かる事業系委員会もありました。また、委員会数の調整から負担が増えた委員会もあったように感じます。一朝一夕で会員数の増加は見込めませんが、理事一人ひとりの負担を軽減するためにも常に拡大活動に取り組む大切さをLOMメンバー全員に理解させる必要があると改めて感じた一年でした。

また、例会や委員会の出席率が低かったと思います。高い出席率を保っていたのはほぼ理事会構成メンバーであり、それ以外の会員はなかなか出席率が伸び悩んでいたことは残念に感じる次第です。今後、会員同士の絆を更に深め、出席率が向上していくことを願います。

青年会議所は明るい豊かな社会を実現するという目的があります。そのためには、市民を巻き込み大きな運動を展開していく必要があります。近年では継続的な事業を行い、地域に根付く活動を展開しています。しかし、一宮青年会議所の認知度はまだまだ低いものだと思います。これからは広報にも注力し、インパクトある事業展開を期待しています。

最後に、『未来創造～自らの成長が地域を創る～』のスローガンのもと、森理事長を始め執行部の皆様が一体感を持ち尽力されたからこそ、無事に一年を終えることができたと思います。一宮青年会議所のさらなる飛躍を願い、監事所感とさせていただきます。

2018年 公益社団法人一宮青年会議所 組織図



貸借対照表
2018年 12月 31日 現在

(単位：円)

| 科 目 | 当 年 度 | 前 年 度 | 増 減 |
|------------|------------|------------|-----------|
| I 資産の部 | | | |
| 1. 流動資産 | | | |
| 現金預金 | 8,587,718 | 8,757,365 | △ 169,647 |
| 未収金 | 830,000 | 601,000 | 229,000 |
| 立替金 | | 0 | 0 |
| 前渡金 | 8,000 | 8,000 | 0 |
| 流動資産合計 | 9,425,718 | 9,366,365 | 59,353 |
| 2. 固定資産 | | | |
| (1)定期預金 | 29,000,000 | 29,000,000 | 0 |
| (2)積立資産 | | 0 | 0 |
| (3)その他固定資産 | 197,103 | 262,802 | △ 65,699 |
| その他固定資産合計 | 29,197,103 | 29,262,802 | △ 65,699 |
| 固定資産合計 | 29,197,103 | 29,262,802 | △ 65,699 |
| 資産合計 | 38,622,821 | 38,629,167 | △ 6,346 |
| II 負債の部 | | | |
| 1. 流動負債 | | | |
| 仮受金 | | 0 | 0 |
| 前受金 | 60,000 | 162,000 | △ 102,000 |
| 預り金 | 18,174 | 5,920 | 12,254 |
| 流動負債合計 | 78,174 | 167,920 | △ 89,746 |
| 負債合計 | 78,174 | 167,920 | △ 89,746 |
| III 正味財産の部 | | | |
| 1. 指定正味財産 | | 0 | 0 |
| 2. 一般正味財産 | 38,544,647 | 38,461,247 | 83,400 |
| 正味財産合計 | 38,544,647 | 38,461,247 | 83,400 |
| 負債及び正味財産合計 | 38,622,821 | 38,629,167 | △ 6,346 |

正味財産計算書

2018年 1月 1日 から2018年 12月 31日 まで

(単位：円)

| 科 目 | 決算 |
|---------------|------------|
| I 一般正味財産増減の部 | |
| 1. 経常増減の部 | |
| (1) 経常収益 | |
| ① 受取入会金 | 300,000 |
| 入会金 | 300,000 |
| ② 受取会費 | |
| 正会員会費 | 7,667,500 |
| 予定者登録料 | 840,000 |
| 賛助会員会費 | 45,000 |
| 特別会員会費 | 360,000 |
| 受取会費計 | 8,912,500 |
| ③ 事業収益 | |
| 登録料収益 | 628,000 |
| 協賛金収益 | 2,976,626 |
| 事業収益計 | 3,604,626 |
| ④ 受取補助金等 | |
| 地方公共団体補助金 | 323,000 |
| 受取補助金等計 | 323,000 |
| ⑤ 雑収益 | |
| 受取利息収益 | 2,904 |
| その他雑収益 | 194,823 |
| 雑収益計 | 197,727 |
| 経常収益計 | 13,337,853 |
| (2) 経常費用 | |
| ① 事業費 | |
| 会場設営費 | 3,414,229 |
| 講師関係費 | 1,614,560 |
| 印刷製本費 | 825,874 |
| 広報費 | 1,357,502 |
| 記念品費 | 188,007 |
| 通信費 | 820 |
| 保険料 | 26,600 |
| 雑費 | 16,864 |
| 事業費計 | 7,444,456 |
| ② 管理費 | |
| 会議費 | 81,400 |
| 地代家賃 | 1,360,800 |
| 光熱水料費 | 74,901 |
| 給与手当 | 1,200,000 |
| 福利厚生費 | 10,824 |
| 通信運搬費 | 271,211 |
| 消耗品費 | 262,537 |
| 賃借料 | 204,768 |
| 減価償却費 | 65,699 |
| 会計監査手数料 | 162,000 |
| 国内国際渉外費 | 48,674 |
| 慶弔費 | 107,000 |
| 交際費 | 36,500 |
| 負担金 | 1,553,796 |
| 雑費 | 159,887 |
| 管理費計 | 5,599,997 |
| 経常費用計 | 13,044,453 |
| 当期経常増減額 | 293,400 |
| 2. 経常外増減の部 | |
| (1) 経常外収益 | |
| 経常外収益計 | 0 |
| (2) 経常外費用 | |
| 雑損失 | 0 |
| 貸倒損失 | 210,000 |
| 経常外費用計 | 210,000 |
| 当期経常外増減額 | △ 210,000 |
| 当期一般正味財産増減額 | 83,400 |
| 一般正味財産期首残高 | 38,461,247 |
| 一般正味財産期末残高 | 38,544,647 |
| II 指定正味財産増減の部 | |
| 当期指定正味財産増減額 | 0 |
| 指定正味財産期首残高 | 0 |
| 指定正味財産期末残高 | 0 |
| III 正味財産期末残高 | 38,544,647 |

余剰金計算書(案)

自2018年1月1日 至2018年12月31日

| | |
|-----------------|-------------|
| 本年度余剰金 | 38,544,647円 |
| 上記金額を下記の如く処分する。 | |
| 次年度繰越金 | 38,544,647円 |

財務諸表に対する注記

1 重要な会計方針

(1)「公益法人会計基準」(平成16年10月14日 公益法人等の指導監督等に関する関係省庁 連絡会議申し合わせ)を採用している。

(2)消費税の会計処理等

税込処理を採用している。

(3)固定資産の減価償却の方法

工具器具備品の減価償却は、定率法を採用している。

2 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び残高は次のとおりである。

(単位:円)

| 科目 | 取得価額 | 減価償却累計額 | 当期末残高 |
|--------|-----------|---------|---------|
| 工具器具備品 | 1,117,095 | 919,992 | 197,103 |
| 合計 | 1,117,095 | 919,992 | 197,103 |

財産目録
2018年 12月 31日 現在

(単位：円)

| 科 目 | 使 用 目 的 | 金 額 | | |
|--------------------|--------------------------------|------------|---------|------------|
| I 資産の部 | | | | |
| 1. 流動資産 | | | | |
| 現金 | 本会事業管理・運営の運転資金として | | 105,979 | |
| 預金 | | | | |
| 三菱東京UFJ銀行一宮支店 普通預金 | 本会事業管理・運営の運転資金として | 3,561,242 | | |
| いちい信用金庫一宮支店 普通預金 | 本会事業管理・運営の運転資金として | 1,384,140 | | |
| 尾西信用金庫本店営業部 普通預金 | 本会事業管理・運営の運転資金として | 3,536,357 | | 8,481,739 |
| 前渡金 | | | | |
| 京都会議事前登録料 | 地区・ブロック協議会における前渡額 | | 8,000 | |
| 未収入金 | | | | |
| 日本青年会議所 出向者 1名 | 本会事業管理・運営における未収額 | 20,000 | | |
| 入会金 3名 | 本会事業管理・運営における未収額 | 90,000 | | |
| 正会員会費 6名 | 本会事業管理・運営における未収額 | 540,000 | | |
| 予定者登録料 3名 | 本会事業管理・運営における未収額 | 180,000 | | 830,000 |
| 流動資産合計 | | | | 9,425,718 |
| 2. 固定資産 | | | | |
| (1) 定期預金 | | | | |
| 三菱東京UFJ銀行一宮支店 定期預金 | 公益目的保有財産であり、運用益を公益目的事業の財源として使用 | 9,000,000 | | |
| いちい信用金庫一宮支店 定期預金 | 公益目的保有財産であり、運用益を公益目的事業の財源として使用 | 10,000,000 | | |
| 尾西信用金庫本店営業部 定期預金 | 公益目的保有財産であり、運用益を公益目的事業の財源として使用 | 10,000,000 | | 29,000,000 |
| (2) その他固定資産 | | | | |
| パソコン | 本会事業管理・運営のため | 1 | | |
| 収納一式(南側) | 本会事業管理・運営のため | 105,188 | | |
| 収納一式(東側) | 本会事業管理・運営のため | 91,914 | | |
| その他固定資産合計 | | | 197,103 | |
| 固定資産合計 | | | | 29,197,103 |
| 資産合計 | | | | 38,622,821 |
| II 負債の部 | | | | |
| 1. 流動負債 | | | | |
| 前受金 | | | | |
| LOM基本資料 | 本会事業管理・運営における前受額 | 60,000 | | |
| 預り金 | | | 60,000 | |
| 源泉所得税及び住民税 | 本会事務局員のための預り額 | 18,174 | 18,174 | |
| 流動負債合計 | | | | 78,174 |
| 2. 固定負債 | | | | |
| 固定負債合計 | | | | 0 |
| 負債合計 | | | | 78,174 |
| III 正味財産 | | | | 38,544,647 |

2019年1月4日

公益社団法人一宮青年会議所
理事長 眞野 尚人 殿

公益社団法人一宮青年会議所

監事 西岡 信幸



監事 山岡 大介



監査報告書

私たち監事は、平成30年1月1日から平成30年12月31日までの事業年度の事業報告書並びに貸借対照表、損益計算書(正味財産増減計算書のことをいい、正味財産増減計算書内訳表を含む。)、その附属明細書及び財産目録(以下、「財務諸表」という。)に関する監査をいたしました。また、併せて公益目的支出計画実施報告書に関する監査をいたしました。

監査意見

(1) 事業報告の監査結果

事業報告は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認める。

(2) 財務諸表の監査結果

財務諸表は、法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に示しているものと認めます。

(3) 公益目的支出計画実施報告書の監査結果

公益目的支出計画実施報告書は、法令及び定款に従い、法人の公益目的支出計画の実施の状況を正しく示しているものと認めます。

正味財産増減計算書

2018年1月1日から2018年12月31日まで

(単位:円)

| 科 目 | 実施事業等会計 | その他会計 | 法人会計 | 内部取引控除 | 合計 |
|-----------------|------------------|------------------|------------------|----------|-------------------|
| | 公1 | 他1 | | | |
| I 一般正味財産増減の部 | | | | | |
| 1. 経常増減の部 | | | | | |
| (1) 経常収益 | | | | | |
| 基本財産運用益 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 中科目別記載 | | | | | 0 |
| 特定資産運用益 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 中科目別記載 | | | | | 0 |
| 受取入会金 | 150,000 | 75,000 | 75,000 | 0 | 300,000 |
| 受取入会金 | 150,000 | 75,000 | 75,000 | | 300,000 |
| 受取会費 | 4,455,500 | 2,227,200 | 2,229,800 | 0 | 8,912,500 |
| 正会員受取会費 | 3,833,000 | 1,916,000 | 1,918,500 | | 7,667,500 |
| 予定者登録料 | 420,000 | 210,000 | 210,000 | | 840,000 |
| 賛助会員受取会費 | 22,500 | 11,200 | 11,300 | | 45,000 |
| 特別会員受取会費 | 180,000 | 90,000 | 90,000 | | 360,000 |
| 事業収益 | 3,604,626 | 0 | 0 | 0 | 3,604,626 |
| 登録料収益 | 628,000 | | | | 628,000 |
| 協賛金収入 | 2,976,626 | | | | 2,976,626 |
| 受取補助金等 | 323,000 | 0 | 0 | 0 | 323,000 |
| 受取地方公共団体補助金 | 323,000 | | | | 323,000 |
| 雑収益 | 0 | 0 | 197,727 | 0 | 197,727 |
| 受取利息 | | | 2,904 | | 2,904 |
| 雑収益 | | | 194,823 | | 194,823 |
| 経常収益計 | 8,533,126 | 2,302,200 | 2,502,527 | 0 | 13,337,853 |
| (2) 経常費用 | | | | | 0 |
| 事業費 | 6,654,446 | 3,185,110 | | 0 | 9,839,556 |
| 会場設営費 | 3,128,676 | 285,553 | | | 3,414,229 |
| 講師関係費 | 731,664 | 882,896 | | | 1,614,560 |
| 印刷製本費 | 141,165 | 684,709 | | | 825,874 |
| 懇親会費 | | | | | 0 |
| 旅費交通費 | | 0 | | | 0 |
| 広報費 | 1,053,428 | 304,074 | | | 1,357,502 |
| 参加記念品 | 96,268 | 91,739 | | | 188,007 |
| 通信費 | 820 | 0 | | | 820 |
| 保険料 | 26,600 | | | | 26,600 |
| 雑費 | 10,044 | 6,820 | | | 16,864 |
| 地代家賃 | 671,787 | 246,605 | | | 918,393 |
| 光熱水料費 | 36,976 | 27,495 | | | 64,472 |
| 給与手当 | 360,000 | 360,000 | | | 720,000 |
| 通信運搬費 | 133,889 | 99,558 | | | 233,447 |
| 消耗品費 | 129,607 | 96,374 | | | 225,981 |
| 賃借料 | 101,088 | 75,168 | | | 176,256 |
| 減価償却費 | 32,434 | 24,117 | | | 56,551 |
| 管理費 | | | 1,651,101 | 0 | 1,651,101 |
| 会議費 | | | 81,400 | | 81,400 |
| 地代家賃 | | | 442,407 | | 442,407 |
| 光熱水料費 | | | 10,429 | | 10,429 |
| 給与手当 | | | 480,000 | | 480,000 |
| 福利厚生費 | | | 10,824 | | 10,824 |
| 通信運搬費 | | | 37,764 | | 37,764 |
| 消耗品費 | | | 36,556 | | 36,556 |
| 賃借料 | | | 28,512 | | 28,512 |
| 減価償却費 | | | 9,148 | | 9,148 |
| 会計監査手数料 | | | 162,000 | | 162,000 |
| 国内国際渉外費 | | | 48,674 | | 48,674 |
| 慶弔費 | | | 107,000 | | 107,000 |
| 交際費 | | | 36,500 | | 36,500 |
| 雑費 | | | 159,887 | | 159,887 |
| 負担金 | | | 1,553,796 | | 1,553,796 |
| JCI負担金 | | | 117,221 | | 117,221 |
| 日本JC負担金 | | | 380,500 | | 380,500 |
| 東海地区協議会負担金 | | | 150,000 | | 150,000 |
| 愛知ブロック協議会負担金 | | | 695,000 | | 695,000 |
| その他負担金 | | | 211,075 | | 211,075 |
| 経常費用計 | 6,654,446 | 3,185,110 | 3,204,897 | 0 | 13,044,453 |
| 評価損益等調整前当期経常増減額 | 1,878,680 | △ 882,910 | △ 702,370 | 0 | 293,400 |
| 評価損益等計 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 当期経常増減額 | 1,878,680 | △ 882,910 | △ 702,370 | 0 | 293,400 |
| 2. 経常外増減の部 | | | | | 0 |
| (2) 経常外費用 | | | | | 0 |
| 貸倒損失 | | | 210,000 | | 210,000 |
| 雑損失 | | | 0 | | 0 |
| 経常外費用計 | 0 | 0 | 210,000 | 0 | 210,000 |
| 当期経常外増減額 | 0 | 0 | △ 210,000 | 0 | △ 210,000 |
| 当期一般正味財産増減額 | 1,878,680 | △ 882,910 | △ 912,370 | 0 | 83,400 |
| 一般正味財産期首残高 | 0 | 0 | | | 38,461,247 |
| 一般正味財産期末残高 | | | | 0 | 38,544,647 |
| III 正味財産期末残高 | | | 0 | 0 | 38,544,647 |

2018年度財務諸表等適法性確認報告書

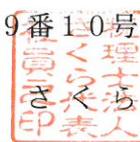
公益社団法人 一宮青年会議所

2018年度理事長 森 大介殿

作成年月日 2018年12月31日

名古屋市熱田区大宝三丁目9番10号

税理士法人



代表社員税理士 陣田裕司

当税理士法人は、公益社団法人一宮青年会議所の2018年1月1日から2018年12月31日に係る貸借対照表及び収支計算書並びにその付属明細書並びに財産目録、併せて、正味財産増減計算書について通常必要とされる財務諸表の適法性確認手続きを実施し、また当税理士法人が必要と認めたその他の確認手続きを実施しました。

この財務諸表等は依頼者が自ら起票した伝票に基づき、コンピュータ処理により作成した、仕訳帳、総勘定元帳、試算表、固定資産台帳等に基づき作成されております。

日々の取引に関する記録や領収書等はコンピュータ処理により整然と処理され、摘要も詳細に記載されており、疑義を挟む余地のない水準で処理されております。

記帳は事実に基づいて真实性、適時性、網羅性の要件を満たしたものであり適法に処理されていると認めます。